平成２８年度　自己評価・学校関係者評価　報告書

岐阜県立大垣工業高等学校 | 学校番号 | ２７

Ⅰ　自己評価

１　学　校　教　育　目　標	誠実にして強くたくましい心と身体をもち、心豊かな人間性と確かな知識・技術を兼ね備え、創造性に富む実践的な産業人の育成を図る。このことを実現するために以下の４項目を指導の重点として定めた。 （１）生徒の学習意欲を高め、確かな力を身に付けさせる教育の推進 （２）生徒に軸足を置いた豊かな人間性を育てる教育の推進 （３）一人一人が帰属意識をもち、生涯を見通した進路意識を高揚させる教育の推進 （４）地域に開かれた信頼される学校づくり

２　評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導
３　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	**【生徒対象のアンケート結果】** （１）「先生は熱心に学習指導や生徒指導に取り組んでいる」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 ９０％(H26) → ８９％(H27) → ９１％(H28) （２）「先生は専門的知識が豊富で授業内容を信頼できる」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 ８８％(H26) → ９１％(H27) → ９１％(H28) （３）「先生は授業の教え方や説明がわかりやすい」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 ８４％(H26) → ７６％(H27) → ８３％(H28) （４）専門分野の学習について、「(工業の専門分野を学ぶ)実習や課題研究の授業は有意義である」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 ９０％(H26) → ８７％(H27) → ８７％(H28) （５）「学校は、授業を改善(わかりやすい授業、楽しい授業等)しようと努力している」という問いに「あてはまる」と回答した生徒の割合 ９０％(H26) → ８３％(H27) → ９１％(H28) ・上記は、授業に関連する生徒アンケートの３年間の推移である。各教員が熱心に指導し、それを多くの生徒が好意的に受け止めている状況が見られる。より一層高いレベルを目指す取組が今後も必要である。 **【保護者対象のアンケート結果】** （１）「学校は、工業の専門的な技術の習得ができるような指導を行っている」という問いに「あてはまる」と回答した保護者の割合 ９６％(H26) → ９６％(H27) → ９５％(H28) （２）「教職員は授業を通して学力が向上するように指導している」という問いに「あてはまる」と回答した保護者の割合 ８７％(H26) → ８５％(H27) → ８７％(H28) （３）「学校は、授業を改善(わかりやすい授業、楽しい授業等)しようと努力している」という問いに「あてはまる」と回答した保護者の割合 ７７％(H26) → ７７％(H27) → ７８％(H28) ・上記は、授業に関連する保護者アンケートの３年間の推移である。教職員の学習指導の状況については、職員会議等でこの状況を伝え改善の方策を練るなどの取組を強化していく必要がある。

４　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒の学習意欲を高め、確かな力を身に付けさせる教育の推進
５　重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部、学校活性部、工業部が連携して推進

６　目標の達成に必要な具体的な取組	７　達成度の判断・判定基準あるいは指標
①コラボレーション授業（普通科と専門科の連携事業）の積極的な実施により、指導内容や指導方法を教科間で相互理解し、効果的なカリキュラムマネジメントを行う。 ②ＩＣＴを活用した授業や言語活動を充実した授業の実施に努め、アクティブラーニングによる授業方法を研究する。 ③考査前学習会や考査後の集中指導、学習特別指導を学期ごとに行い、全職員体制による生徒の学習支援を行う。	❶生徒による授業評価の結果 ❷アンケートの回答 ❸学校関係者評価 ❹欠点者数の減少、留年者ゼロ

８　取組状況・実践内容等	９　評価視点	１０ 評　価
①コラボレーション授業（普通科と専門科の連携事業）を各学科ごとに実施 ②ＩＣＴを活用した授業や言語活動を充実した授業の実施 ③考査前学習会や考査後の集中指導、学習特別指導を学期ごとに実施	①生徒を対象とする授業評価の結果が向上したか。 ②生徒を対象とするアンケートの結果が向上したか。 ③成績不良科目数が減ったか。	Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ Ａ Ｂ Ⓒ Ｄ

11 成果・課題	○コラボレーション授業やＩＣＴを活用した授業、言語活動を充実した授業について、各教員が創意工夫して授業改善を行うことができた。 ○本年度の全校生徒に対するアンケートで、「学校は、授業を改善(わかりやすい授業、楽しい授業等)しようと努力している」という問いに、「あてはまる」と回答した生徒は、９１％(前年比＋８％)であった。 ▲今年度は研究授業を数多く行っていただけた。さらに授業改善のための環境整備や、職員への情報提供などを行っていく必要がある。	総　合　評　価 Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ

平成２９年度
１２　重点項目
◇ＩＣＴを活用した授業や言語活動を充実した授業の実施に努め、アクティブラーニングによる授業方法を研究
１３　具体的実践内容
今年度行った取り組みのさらなる充実のために、ＩＣＴ機器の整備や授業改善に必要な環境整備、職員への教育情報の提供などを行う。

２　評価する領域・分野	◇生徒指導（含教育相談）
３　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・多くの生徒が、高校に入り規範意識が向上したと感じている。特に提出物について中学との違いを感じている。 ・ケータイの使用時間が多く感じる。通信機器としての使用より、ゲーム機としての使用が多いのではないか。最長５時間という生徒はその傾向が顕著である。
４　今年度の具体的かつ明確な重点目標	・基本的生活習慣の育成（ルールやマナーを自ら守る力） ・生徒理解の徹底と人権の尊重 ・教科、ＨＲ指導の充実
５　重点目標を達成するための校内における組織体制	・登校時、遅刻時のルールの徹底、生徒登校状況の見える化 ・生徒情報の共有化（朝会、職員会議での早い連絡） ・指導、支援のマニュアル化と情報共有

６　目標の達成に必要な具体的な取組	７　達成度の判断・判定基準あるいは指標
・登校指導時の交通安全、身だしなみの指導 ・いじめに関する研修を行い早期対応する。 ・メール等活用し、保護者に情報提供する。	・昨年度の統計との比較 ・指導生徒の改善（身だしなみ指導、遅刻指導） ・いじめの早期発見が出来ているか。

８　取組状況・実践内容等	９　評価視点	１０　評　価
・遅刻届を黒板に掲示するクリップを導入 ・朝の遅刻指導を確実に行う。 ・生徒指導部会議で、１週間毎に生徒の状況を確認し、配慮が必要な生徒の情報交換を行う。 ・ＭＳＬによる啓発活動を行う。	①組織的にサポートできたか。 ②落ち着いた授業の雰囲気 ③職員間で連携が取れたか。	Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ Ⓐ Ｂ Ｃ Ｄ Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ

１１成果・課題	・遅刻生徒が平成25年度を境に減少してきている。日頃の遅刻指導の成果が着実に表れている。しかし、体調不良生徒の早退は、若干増加した。 ・教育相談対象の生徒が増加し、即時対応が難しかった。 ・支援の必要な生徒が学年、クラスにかたよった時期があり、組織として十分な対応が出来ない時があった。今後の改善課題である。	総　合　評　価 Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ

平成２９年度
１２　重点項目
・自己自律ができる生徒の育成（基本的生活習慣の確立） ・教育相談の充実とチームサポートにより組織として支援できる体制づくり
１３　具体的実践内容
・学年主任会を行い、生徒指導・教育相談で支援が必要な生徒の情報共有を行う。 ・公開授業ウイークに合わせ、授業規律確立週間を設ける。

２　評価する領域・分野	進路指導
３　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・基礎学力向上のために実施している基礎力診断テスト結果の考察 ・朝学習でのマナトレ問題集の到達度診断結果の考察と進捗度 ・ガイダンス後の生徒の様子やアンケート結果による意識変化の考察
４　今年度の具体的かつ明確な重点目標	・１年生朝学習の改善・充実により、２年生朝学習での使用教材難易度のアップによる基礎学力の向上 ・「進路の手引き」の積極的活用 ・大工版「生徒未来手帳」の計画・立案・作成と導入
５　重点目標を達成するための校内における組織体制	・担任および学科主任と連携した朝学習への理解と支援 ・大工版「生徒未来手帳」の作成目的と趣旨を生徒・職員へ周知し、現在使用している学科へのリサーチと協力要請

６　目標の達成に必要な具体的な取組	７　達成度の判断・判定基準あるいは指標
・朝学習の取り組み方の改善・充実のための担任の先生への協力依頼 ・大工版「生徒未来手帳」の計画・立案・作成	・基礎力診断テストの結果 ・マナトレ問題集の到達度診断結果と達成度 ・大工版「生徒未来手帳」の次年度導入への要請

８　取組状況・実践内容等	９　評価視点	１０　評　価
・学年会・学科主任会に依頼して積極的取り組みをお願いしたが、進捗状況は厳しかった。 ・大工版「生徒未来手帳」は、生徒指導部等の協力を得て生徒必携を組み込んだ形で次年度導入に向けた取り組みを進めている。	・朝学習の達成度 ・マナトレ問題集の到達度診断結果の達成度 ・大工版「生徒未来手帳」完成度	A　B　(C)　D A　(B)　C　D A　(B)　C　D

１１成果・課題	・１２月までに就職・進学合わせて９７％の進路内定をすることができた。 ・１年生朝学習の改善・充実による基礎学力の向上を目指したが、学科の特色を活かすことの優先要望との兼ね合いで進捗度は厳しかった。 ・大工版「生徒未来手帳」は、導入の目途を付けることができた。 ・情報技術科生徒(大学等へ進学する生徒)の進路実現を目指した取組の充実を、学校活性部と連携して行う必要がある。 ・学校活性部と連携し、進学者の対応として、カレッジ研究会へ支援を要請し、学科を超えた対応での難関大学を目指す生徒の育成を検討したい。	総　合　評　価 A　(B)　C　D

平成２９年度
１２　重点項目
・コミュニケーション能力育成、学校生活への生徒の参加姿勢の改善をとおしたキャリア教育を行う。 ・本年度に引き続き、基礎学力再構築と向上のため、再度、朝学習の改善・充実に取り組む。 ・大工版「生徒未来手帳」導入による活用推進と状況把握、手帳の改善・改良に取り組む。
１３　具体的実践内容
・コミュニケーション能力育成のための取組を、日常の学習活動にもっと多く取り入れてもらえるように、職員や分掌・学科に協力依頼をする。 ・基礎学力定着指導強化のため、学年会や学科主任会と連携を密にする。 ・大工版「生徒未来手帳」を常に携帯させて、集会等でのメモや記録をさせる指導に努める。

２　評価する領域・分野	工業
３　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	《保護者・生徒アンケート結果より》 ・「工業の専門的な技術の習得ができるような指導を行っている」については、保護者は９５％、生徒は９７％があてはまるという評価をしている。各学科の特色を出しながら、それぞれの学科において特徴のある専門的な学習を、座学と実習を連携させて適切に実施していると理解している。 ・「資格取得を奨励し、補習などによる積極的な援助」については、保護者の８９％、生徒の９０％が高い評価をしており、資格試験に対する日常の指導が理解されていると思われる。しかしながら、個別の受験状況を分析すると、受験しても合格が困難な資格への挑戦者も多い。個々の指導を充実させ、さらなる合格率を上げる工夫が求められている。 ・「安全に配慮した指導」については、保護者の８６％、生徒の９４％が高い評価をしている。実習前の整列点呼時や実習中の教職員の安全教育指導に対して適切に指導されていると評価されている。
４　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇教科指導を通して職業観・勤労観を育成し、心豊かな人間性とたくましく生きる力を育てる。 ◇大垣市や地元の企業・教育機関との連携により、地域産業のニーズに応じた実践力と協調性のある人材を育成する。 ◇普通科と連携し、本校における全ての教育活動において、グローバル化に対応した豊かな語学力・コミュニケーション能力等の幅広い学力の向上を図る。 ◇出前授業やものづくり体験等の企画運営を通して、地域や小中学校の児童生徒・保護者の工業教育への関心を高める。 ◇授業を通して安全教育を推進し、事故災害の未然防止を図る。
５　重点目標を達成するための校内における組織体制	・工業部 → 学科主任会（課題研究、資格試験、産振設備備品 ↓　出前授業、テクノコラボ、大工Day ） 学年部　工業庶務（渉外・会計・広報・外部イベント）

６　目標の達成に必要な具体的な取組	７　達成度の判断・判定基準あるいは指標
（１）地域と連携した活動の推進 ①テクノ･コラボレーション ②大工Ｄａｙ ③出前授業 ④大垣市との連携 ⑤地域イベントへの参加 （２）教育機関と連携した活動の推進	（１）各行事に参加した生徒の反応と感想 各行事で実施したアンケートの評価

８　取組状況・実践内容等	９　評価視点	１０　評　価
・大垣特別支援学校の生徒たちの意見を取り入れた障がい者用教材を、課題研究の中で製作し、１２月２０日に贈呈式を行い寄贈した。 ・７月２３日に「大工Ｄａｙ」を大垣市内３ヶ所の商業施設で、各学科および理科部の参加により実施した。作品の展示やものづくりなどを体験してもらえる活動を実施した。 ・西濃地区の小中学校の授業の一環として、本校の教員や生徒が講師となって授業を行う「出前授業」について、申込みがあった５テーマについて実施した。 ・大垣市や各種団体の依頼により、地域で実施される地域のまつりやイベントなどに、本校の部活動の成果の発表、ものづくり体験コーナーなどを設置し、地域の人達と交流した。 ・学科主任が他の学科の実習室を点検し、指摘	①他人を思いやれる心を育成し「人にやさしいものづくり」を考える力を深化させることができたか。 ②生徒が外部の人と対応することにより、実践的なコミュニケーション能力が身に付いたか。 ③小・中学生に対して工業高校への興味・関心を喚起し、本校の広報の一助とすることができたか。 ④生徒が外部の人と対応することにより、実践的なコミュニケーション能力が身についたか。	Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ Ⓐ Ｂ Ｃ Ｄ Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ Ⓐ Ｂ Ｃ Ｄ Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ

箇所を改善する整備活動を開始した。これまで各学科のみに任せてあった安全点検を、科の枠を超えて実施することで５S活動の意識を高めるよう新たな活動を開始した。	⑤実習室が安全かつ整理整頓されているか。	

11 成果・課題	・イベント活動、出前授業、大会などの成果など、多面的な活動によって、工業高校・工業教育への関心が浸透している。 ・大垣市、地元企業、教育機関などとの連携により、主体性を持って活動できる学びの場が多く得られ、責任感、実践力、協調性を学べた。 ▲外部イベントが多く、担当する職員・生徒の負担が大きくなっている。 ▲生徒の学習や資格取得、課外活動などに取り組む姿勢の差が、大きく開いている面が見られる。	総合評価 A Ⓑ C D

平成２９年度

12　重点項目

・「世界で活躍できる人材の育成」を前面に出し、全ての生徒に対して実践的な力をつけさせる方策を充実させる。さらに、意欲的な生徒に対しては高度な能力を身につけられるような機会を設定する。
・平成２７年度まで研究指定を受けていた「リーディングプロジェクト」や「飛び出せスーパー専門高校生」の各事業を通して培ってきたものを今年度に引き続き継続させる。
・地域や企業・大学等の教育機関との連携を密にし、行事関係のスムーズな運営を進め効率化を図る。
・より多くの生徒が充実感と達成感を持つことができるよう、地域に対し本校がものづくり人材育成の場として理解されるようにし、積極的な後援を得られるようにする。
・ものづくりに興味関心を示し、将来リーダーとして活躍できる人材が「本校で学びたい」と強く希望する方策を検討する。
・今年度より学科の枠を超えての実習室点検を開始したが、まだ流れを作ったところである。実習室の整理整頓を中心とした５S運動を学科全体で推進する。

13　具体的実践内容

・学校見学会や高校見学会、出前授業、外部団体と協力するイベントなど、より多くの生徒が参加できるよう、広報活動を充実する。
・資格取得を目指す生徒への案内の充実と、適切なアドバイスを行う。
・外部団体と打ち合わせた情報を、関係学科の職員が容易に確認でき、運営を円滑に行えるような情報提供の仕組みを構築する。
・イベントへの参加を生徒に促すとともに、積極的にものづくり体験コーナーで運営に携われるようにする。
・各学科の魅力ある取り組み内容や、本校の生徒が活躍する姿を広報できるように、ホームページへの掲載など積極的に行う。
・高校見学会や中学生１日入学での体験内容などの充実を進める。
・学科主任が中心で行う実習室点検活動を進めるとともに、より安全な環境づくり・実習室の改善を進める。

2　評価する領域・分野	保健・健康管理
4　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生活習慣の確立と体力の向上 ◇健康安全に関する教育の推進と事故の未然防止 ◇体育施設の充実と安全点検 ◇集団行動の徹底 ◇職員厚生の充実
5　重点目標を達成するための校内における組織体制	・学校保健委員会 ・校内保健委員会 ・科内会議（養護教諭参加）

6　目標の達成に必要な具体的な取組	7　達成度の判断・判定基準あるいは指標
1）　自己の体力等を把握し、適正な運動実践をとうして体力の向上に努める。 2）　保健だよりなど必要に応じて、全校生徒並びに職員に配布し、健康に関する情報提供や予防を呼びかける。また、手洗い・教室の換気の励行を促すとともに、教室・職員室に消毒液を常置。 3）　学校施設等を定期的に点検。 4）　学校行事や全校集会等において、秩序ある行動を心掛ける。 5）　職員研修会の内容の充実。 6）	1）欠席等の統計、新体力テストの結果 2）健康診断の結果、事後措置 3）点検・修繕日誌、施設使用簿 4）集合整列の時間等 5）参加者の人数、活性化

8　取組状況・実践内容等	9　評価視点	10評　価
1）生徒一人一人の能力・適性に応じた指導内容。	・適正な運動実践をとうして体力の向上に努めることができたか。	A (B) C D
2）保健だよりを定期的に配布したり、熱中症のＤＶＤを全校集会で視聴させた。 性感染症に関しては、Ｔ２(先生2名)で授業を行った。	・健康に対する意識を高めることができたか。	A (B) C D
3）学校施設を定期的に点検し、部室・器具庫のカギの管理を徹底した。	・施設を合理的・効果的に利用できたか。	A (B) C D
4）集団行動の徹底を促した。	・集団行動の必要性を理解できたか。	A (B) C D
5）定期考査中に職員研修会を実施した。	・職員間の親睦と活性化を図れたか。	A (B) C D

11 成果・課題		総　合　評　価
	○今年度口腔衛生モデル実践校となり、ハイリスク生徒の指導を重点的に行い、2回の歯科検診とブラッシング指導などを何度も行い、効果をあげた。 ▲新体力テストの経年変化では、ほとんどの種目で記録が向上した。 △インフルエンザでは2年7組が学級閉鎖になったが、その後の拡散は抑えることができた。	A (B) C D

平成２９年度
12　重点項目
引き続き生活習慣のもとになる「歯科」に関して取り組んでいきたい。 例年どうりの重点目標だが、感染症対策の徹底は急務である。
13　具体的実践内容
基本知識の理解・実践に必要な面を整理していく。

２　評価する領域・分野	環境管理
３　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	外部評価より（「よくあてはまる」＋「あてはまる」の割合） ・校内がきれいである。（生徒のみ）６７％ ・地震・台風の対策マニュアルがわかる。保護者95%生徒９１％
４　今年度の具体的かつ明確な重点目標	・生徒一人ひとりに「汚さない」という強い意識を持たせる。 ・地域清掃活動により地域との連携を図る。 ・命を守る訓練の体験を通して、危機管理意識を高揚する。
５　重点目標を達成するための校内における組織体制	・環境管理部および担任を中心とした全職員による協力 ・環境委員会とＭＳリーダーズとの連携 ・防災担当を中心とした危機管理体制の計画・立案

６　目標の達成に必要な具体的な取組	７　達成度の判断・判定基準あるいは指標
・日常の清掃と分別収集の徹底を図る。 ・地域交流清掃活動の実施 ・年３回の命を守る訓練の実施	・外部評価によるアンケート ・命を守る訓練の実施状況

８　取組状況・実践内容等	９　評価視点	１０　評　価
・日常の清掃は担当者の指導の下、ほぼきちんと実施されている。 ・命を守る訓練第２回は高校生防災リーダーによる研究の成果、外部講師による講演、第３回はシェイクアウト訓練を含めて実施した。 ・環境委員による花壇の整備。	・外部評価「校内がきれいである」６５％ ・外部評価「地震・台風の対策マニュアルがわかる」９３％ ・命を守る訓練により、生徒の危機管理意識は高まった	Ａ (Ｂ) Ｃ　Ｄ (Ａ) Ｂ　Ｃ　Ｄ (Ａ) Ｂ　Ｃ　Ｄ

１１　成果・課題	総　合　評　価
・日常の清掃は担当者の指導の下、ほぼきちんと実施されている。 ・県教育委員会学校安全課主催の高校生防災リーダー養成事業により、命を守る訓練に変更が加えられたこと。熊本や鳥取の地震もあり、それも踏まえて意識を高められたこと。 ・防災マニュアルを少しずつ整備した。 ・日常の清掃では手が届いていない場所の美化、防災体制のさらなる整備を行った。	(Ａ) Ｂ　Ｃ　Ｄ

平成２９年度
１２　重点項目
・校内のさらなる美化 ・命を守る訓練を含めた校内危機管理体制の全職員への周知
１３　具体的実践内容
・全校生徒への美化行動の呼びかけ（外から校舎内に入るときに、土砂を持ち込まないように心掛けるなど） ・防災マニュアルのさらなる改善と危機管理体制の模式図の作成

２　評価する領域・分野	特別活動
３　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・学校行事の充実について ①子供の成長の糧となる学校行事　あてはまる　８９％ ②本校の学校行事は充実している　あてはまる　８５％ ・部活動について ①学校では部活動が活発　あてはまる　９５％ ②本校では部活動が活発　あてはまる　９５％ ・生徒会活動 ①本校では生徒会活動が活発　あてはまる　６９％ それぞれ①は保護者、②は生徒へのアンケートの結果である。学校行事・部活動とも活発という評価を得てはいるが、活発がすなわち充実を意味するわけではない。学校行事においては、各行事の学校側の意図、参加する生徒の姿勢、そしてそれを繋ぐ生徒会・各種委員会の活動が活発とならなければならない。その証拠に、生徒会活動がやや活発でない評価を得ている。
４　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇自治の精神に富み、奉仕の心あふれる生徒の育成に努め、それを生徒自身の成長につなげられる指導を行う。 ◇各学校行事を通して、自己のみならず、集団として取り組む力と人との繋がる力を実感させ、その中で自己を活かしていく能力を伸長する。 ◇さらに、特別活動全般を通して、リーダーシップの在り方及び望ましい人間関係の構築の仕方を学ばせ、さらには人間としての生き方・在り方に関する指導を充実する。 ◇部活動の活性化を図り、自主的に活動できる力、生きる力を育む。
５　重点目標を達成するための校内における組織体制	・職員、全校生徒に対する呼びかけ、及び組織作り ・生徒会執行部の充実、意識改革

６　目標の達成に必要な具体的な取組	７　達成度の判断・判定基準あるいは指標
◇生徒会 （１）生徒会活動への積極的な参加を図るため生徒会執行委員会・議会・各種委員会等の活動との意思の疎通を図る。 （２）各種生徒会行事への積極的な参加をPR活動を通して促し、学校・学級への所属意識及び自発的・実践的な態度を育てる。	（１）生徒総会、球技大会、運動会、文化祭等生徒会行事を計画・運営し、円滑に進めることができたか。また、全校生徒に情報提供がなされたか。 （２）生徒総会、球技大会、運動会、文化祭等生徒会行事の取り組みに、充実感を覚えたか。
◇特活 （１）ホームルーム活動を通じて学級の一員としての自覚を深め、お互いを高め合う人間関係を形成する。 （２）部活動への積極的な参加を促し、達成感及び自己成就感を味わわせることで、自己を生かす能力を育てる。	（１）球技大会、運動会、文化祭等生徒会行事に参加するなかで、クラス単位の取り組みに、充実感を覚えたか。クラス・学校への所属意識は芽生えたか。 （２）年間を通して部活動に積極的に参加したか。「部活動活性化プロジェクト」に対する職員の共感は得られているか。

８　取組状況・実践内容等	９　評価視点	１０　評　価
◇生徒会 ・毎週、定例の執行部会を開き、連絡の徹底及び生徒の自発的な活動を促した。各行事の運営マニュアル等は、教員ではなく生徒に作らせることに重きを置いた。運営及び反省も、生徒にゆだねる部分を増やした。	①定例生徒会での、生徒の活動状況は活発であったか。	A　(B)　C　D

・毎週、火曜日から木曜日を「あいさつ運動」の日として、特活部職員・執行部員各クラス議員の当番で登校する生徒にあいさつを行った。 ・生徒総会、球技大会、運動会、文化祭等生徒会行事への取り組みに関しても、教師側からの指示をなるべく少なくし、生徒が考える時間を取った。さらに、議会・各種委員会を活発に使い全校生徒との連携を図った。 ◇特別活動 ・毎月の部活動実施計画・実施報告の速やかな配布・回収を行った。 ・「部活動活性化プロジェクト」を実施し、全校職員の部活動に対する意識付けを行った。 ・部活動の表彰伝達・壮行会を執行部や応援団員の生徒の手で行うことで、生徒のリーダーとしての意識を高め、各部の努力を他の生徒にも知ってもらうことで、部活動への積極的な取り組みを促した。	②生徒の挨拶習慣は、定着したか。 ③生徒の各行事への参加意識は高まったか。 ④部活動の活性化は成されたのか。	A (B) C D A (B) C D A (B) C D
11 成果・課題	○生徒総会、球技大会、運動会、文化祭等生徒会行事を円滑に運営できた。 ○執行部の生徒達が、学校行事を運営していくだけでなく、一般生徒の学校への帰属意識を高める手段・方法を考える機会が増え、広報活動が充実した。 ▲文化祭の在り方（取り組む姿勢）について、生徒自身が文化祭を自ら楽しめるものになっているとは限らない。 ▲部活動参加について、学校全体での共通理解が十分だとはいえない。	総合評価 A (B) C D

平成２９年度
12　重点項目
自治と奉仕の精神を育み、各学校行事、部活動等を実践していく中で、自ら考え・行動し、問題解決能力を伸長させると共に、生きる力を育てていく。
13　具体的実践内容
・生徒の自主的な発案、構想、アイデアによる生徒会執行部、各行事の運営を図る。 ・部活動に対する参加意識、向上心を育てさせるような「活性化プロジェクト」に取り組む。

2　評価する領域・分野	渉外
3　現状・生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	≪アンケート結果より≫ ・学年懇談会が今年度で３年目となり軌道にのりはじめ、多くの保護者の方に参加を頂いた。「実習室の見学ができ、子供が実際に学習する環境が分かり良かった。」や「生徒指導・進路指導・修学旅行の話が聞けて良かった。」という意見を多く頂き全体的には良い成果が得られた。今年度は動画を用いた説明もあり「通学風景の様子が動画で見ることができ、危険な場所・様子等も理解でき良かった。」という意見も頂いた。開催時期や学年の課題に配慮し、前年度の保護者からのアンケート結果をもとしながら行った。来年度も同じように実施したい。 ・本年度の大きな事業としてはHR教室・生徒に共通する特別教室にエアコンの設置を行った。長年、生徒や保護者からの要望をもとに渉外部が計画立案し、育友会・事務部のご支援を頂き実施に至った。 ・朝学習が継続して行われており、生徒が落ち着いた状況で取り組む姿勢が見られるなど、学習環境の面は、ほぼ満足できる。
4　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇ 育友会員（保護者）に、学校教育活動を通して生徒の様子や実態について正しい認識を持ってもらい、学校行事などで積極的な協力が得られるように努める。 ◇ 保護者との連絡を密にし、家庭や地域での生徒の健全な育成に努める。 ◇ 学校と育友会が各行事に一致団結して取り組めるよう計画する。
5　重点目標を達成するための校内における組織体制	・渉外部職員の意識を高め、校内の各分掌と連携を図りながら、全職員の協力のもとで組織的に運営する。

6　目標の達成に必要な具体的な取組	7　達成度の判断・判定基準あるいは指標
（１）育友会への参加を意味あるものとし、会員の出席が増加するように工夫する。 （２）学校行事への参加の在り方を工夫し保護者の理解を得て積極的な参加を促し、育友会の各委員会の活動をもっと積極的にする。 （３）渉外部として創立90周年記念事業が成功できるよう積極的に育友会へ働きかけた。	（１）多くの育友会員（保護者）に育友会行事に参参加して頂くとともに、多くの建設的な意見を頂くことが判定基準となる。携帯メールを利用した参加の呼びかけを行うなどの取組を通して、保護者に各行事へ積極に参加していただき、学校行事に対する理解を深めていただく。その上で保護者から意見を頂く。 （２）（１）と同様 （３）育友会行事を通して、役員以外の保護者にも積極的に行事への参加を呼びかける。

8　取組状況・実践内容等	9　評価視点	10　評　価
・学年懇談会では、学年ごとに話題と開催日を考慮した。さらに内容も、生徒の生活や進路等、生徒や保護者が直面する内容を取り入れた結果高い出席率となった。 ・創立90周年記念事業において築かれた同窓会ととの連携を継続し、生徒へ還元される事業・内容をできるだけ多くの方に知っていただく。 ・事故発生時の適切な処置および全高Ｐ連賠償責任補償制度（生徒賠償責任保険、ＰＴＡ管理者賠償責任保険）への全員加入を行った。	①　事前の打合せや反省会にも多くの出席者が得られ、保護者からの提言や学校からの情報発信のよい機会となった。 ②　同窓会役員、育友会員（保護者）の多くの方の協力が得られた。 ③　学校安全会という呼称で利用されている。	(A)　B　C　D (A)　B　C　D (A)　B　C　D

11 成 果 ・ 課 題	○学校カレンダーは４月から活用できるようにするために４月始業日に全員に配布した。 ○家庭と学校との連携が効率的で活発な場となり、相互理解と健全な生徒の育成に努められた。また、懇談会で話し合われた内容については、学校の関係分掌で再確認した。さらに、部活動等の成果をまとめた育友会広報誌（若森だより）を各家庭に配布した。	総　合　評　価 Ⓐ　B　C　D

平成２９年度
12　重点目標
◇ 育友会員（保護者）に、学校教育活動を通して生徒の様子や実態について正しい認識を持ってもらい、学校行事などで積極的な協力が得られるように努める。 ◇ 保護者との連絡を密にし、家庭や地域での生徒の健全な育成に努める。 ◇ 学校と育友会が各行事に一致団結して取り組めるよう計画する。
13　具体的実践内容
◇育友会総会の出席率向上のために、様々な工夫をしているが、なかなか状況が好転できず苦慮している。携帯メールで、全保護者へ参加の呼びかけをしたり、ホームページで広報を行ったりするなど、効果的な方法を検討したい。 ◇学校全体で携帯メールによる広報活動が活発になった。育友会からのメール配信も積極的に行いたい。 ◇生徒の地域貢献活動に対しての積極的な参加（育友会行事）を検討している。 ◇防災に関する計画を同窓会・育友会と協力し積極的に進めたい。

2　評価する領域・分野	図書
3　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	・特になし。
4　今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇心豊かな人間性の育成をめざし、生徒があらゆる機会とあらゆる場所をとおして本と親しみ、本を楽しむことができる環境を整備し、読書指導にあたる。 ◇生徒の主体的、自律的な学習活動を支援する学習・情報センターとして図書館の施設・設備の活用を図り、情報化社会に対応した図書館教育を推進する。
5　重点目標を達成するための校内における組織体制	・図書館教育研究会の設置

6　目標の達成に必要な具体的な取組	7　達成度の判断・判定基準あるいは指標
（1）朝読書週間および校内読書感想文コンクールの開催 （2）図書館管理システムや調べ学習などにおけるインターネットの利用など、情報化社会に対応 （3）図書資料・視聴覚機器等の充実	（1）読書感想文の取り組み状況および外部コンクールにおける評価 （2）書籍の貸し出し状況および授業等における図書館利用状況 （3）各分野バランスのとれた蔵書の充実

8　取組状況・実践内容等	9　評価視点	10　評　価
・新入生の図書館オリエンテーションを実施したほか「図書館だより」「新着案内」を発行	①図書館利用状況	A (B) C D
・全職員の協力を得て朝読書と校内読書コンクールを実施	②生徒の取組状況	A (B) C D
・視聴覚室の管理、教材、機器の適切な管理	③視聴覚室　視聴覚機器等利用状況	A (B) C D

11 成果・課題	総　合　評　価
○校内読書感想文コンクールおよび朝読書に対し全職員の協力が得られた。 ○図書委員による図書貸出業務および図書館だより編集とクラス掲示 ○図書館内に新刊、小説、図書館だより紹介図書等のコーナーを設置 ○文化祭での読書案内ポスターの館内掲示および読書指南書の作成と配布 ○授業時や放課後等、学習・情報センターとして利用された。 ○育友会費より予算として１０万円付けて頂いた為、生徒からのリクエスト本を購入する事ができた。 ▲利用している生徒が固定化する傾向がある。利用される書籍はライトノベルが中心で、読書の「質」の向上に向けた指導が、今後も必要である。 ▲現代に即した、視聴覚機器の整備やコンピュータ機器の整備	A (B) C D

平成２９年度
12　重点項目
◇開かれた明るい図書館の整備と読書の「質」的向上に向けた指導を行う。
13　具体的実践内容
・配布物による書籍の紹介のほか、新刊本のポスター掲示や映画またはドラマ化された書籍の紹介をする。 ・生徒の感動や心の成長をにらんだ大工百選の更なる精選を図る。 ・課題研究を含め授業での図書館活用が増えるように働きかける。

２　評価する領域・分野	学校活性部
３　現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	職員に対し８月に第１回目アクティブラーニング（ＡＬ）に関するアンケートを実施した。７５名中５２名の先生がＡＬを取り入れていると回答いただいた。生徒との共同作業を増やすことにより理解の促進と知識の定着を図ることができるとの回答を多くいただいた。
４　今年度の具体的かつ明確な重点目標	（１）本校に必要な新しい教育方法の調査研究 （２）グローバル化に向けた教育と活動の計画と実施 （３）新８組の教育活動の円滑化
５　重点目標を達成するための校内における組織体制	（１）学校活性部の発足 （２）工業教育授業改善委員会や校内研修推進係との連携 （３）英語科・情報技術科・カレッジ研究部との連携

６　目標の達成に必要な具体的な取組	７　達成度の判断・判定基準あるいは指標
（１）ＡＬ型授業及びＩＣＴ活用授業研究グループ構築及び校外研修会参加 （２）海外インターンシップ実施 （３）英会話教室実施（週２回昼休み） （４）新８組推進会議実施 （５）夏季休業中補習・センター対策補習実施	（１）職員アンケート内容 （２）生徒感想文内容 （３）校外スピーチコンテスト結果 （４）学習取り組み調査及び外部模試結果 （５）進学補習参加意欲及び補習後アンケート結果

８　取組状況・実践内容等	９　評価視点	１０　評　価
（１）ＡＬ及びＩＣＴ研究を通し、研究授業を複数回実施した。	（１）指導スキルが向上したか。	Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ
（２）中国高校生訪日団を受入の際、生徒・職員ともに英会話によるコミュニケーションを積極的に行った。	（２）英語によるコミュニケーション能力が向上したか。	Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ
（３）２年８組生徒の進学補習を実施した。	（３）学習意欲の向上が見られたか。	Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ

１１成果・課題	学校活性部の業務内容は先進的なものが多く、時代に遅れを取らないためにも生徒・教員共に現況を把握しつつ、学習に取り組むことが必要であると強く感じた。 実践の中で①自発的なＡＬ型やＩＣＴ活用授業が増えたこと、また、多くの先生に授業を参観していただいたこと、②英語科指導により国際交流および英語力向上に興味を持つ生徒が増加したこと、③学校活性部が新８組生徒との関わりを多くしたことにより、わずかではあるが学習意欲を高めることができた。この３点が大きな成果であると感じている。 ＩＣＴ機器の円滑な利用に向けた環境整備や、生徒の基礎英語力の向上が課題である。また、次年度新８組(進学クラス)生徒が初の大学受験を迎えることに対する教員側の指導体制づくりが課題であると感じる。	総　合　評　価 Ａ Ⓑ Ｃ Ｄ

平成２９年度
１２　重点項目
（１）ＡＬ型及びＩＣＴ活用授業の研究継続 （２）国際教育推進 （３）新８組大学進学支援
１３　具体的実践内容
（１）ＩＣＴ機器の充実 （２）専門高校生国際交流事業（予定）の実施 （３）進学補習の充実

Ⅱ 学校関係者評価

実施年月日：平成２９年１月２３日

【意見・要望・評価等】

・地域とのかかわりで、数多くのイベントに参加されているのはすばらしい。

・校外で部活動をしている生徒さん達がすれ違う時に気持ちのよい挨拶をしっかりとしてくれる。

・工業部の中で専門外（別の学科）の者どうしで、違った視線で安全点検をしているのは良いことだ。一般社会でも異業種間の交流というのは重要である。

・授業見学に行く途中の廊下に掲示されていたものが、before、afterがよくわかるようになっていて、見える化ができていると思った。学校の取り組みがよくわかった。

・グローバル化に向けて、ALTの授業もよかった。TOEICの受検等も考えてみてはどうか。

・技術教育だけでなく、それを学ぶことによって何が変わるのかを、生徒自身が話をできることが良かった。社会人としては目的をいかに説明できるかということや、自分の考えを話せることが大切である。また、技術だけでなくそれを使って何ができるのかを考えることができるように勉強することが大事である。

・これまでのこと（学校評議員の意見等）を受けて改善していこうという姿勢が素晴らしい。

・社労士や税理士の方をお呼びして、生徒に講話していただくなどの取組を通して、生徒たちに自分自身を守っていく力を身に付けさせなければならない。

・女性もこれからの時代はますます平等に働く時代となっていく。ものづくりは女性に向いているところもあるので、工業高校にもどんどん入ってきてもらいたい。そのための環境を作るのは大変だと思うが、学校の活性化も期待できるのではないか。女子中学生に工業高校を受けてもらいたい。

・イベントで生徒たちが元気に活躍する姿を見かける。ところが、元気がなくメンタルが弱い生徒が増えているということだが、どのようなケアができるのかが難しい。見た目は元気がないように見えても、内に秘めたものがあると思われるので、その点の考慮も必要だ。

・HPについて、閲覧カウントの数値が、あまり上がらないとのことだが、そんなに問題なことだとは思わない。ただ、HPが知られているのか、内容についてどう思っているのかを分析する必要がある。保護者が欲している情報をつかむ必要がある。

・病んでいる人が増えている。生徒だけでなく先生も病んでいるのでは。部活動で頑張れば頑張るほど自分の時間が無くなって、余裕がなくなるのでは。健全な生徒を育てるためには健全な先生がいなければならない。先生の置かれている状況は気の毒な難しい時代になった。

・入社しても１，２年でやめてしまう場合がある。会社の相性もあるかと思われるので、できるだけミスマッチを避けられるようにしてほしい。

・精神的に弱いのは、環境によるものかと思われる。スマホ依存等によるものではないか。

・離職率の問題では、入社前に会社から家庭訪問を受けたりし、会社の説明を保護者も含めて聞く必要があるのではないか。離職には３年目、４年目、６年目の壁がある。保護者ともよく連携して、離職しないような進路指導が大切である。